

I 研究方針

近年、2050年までのカーボンニュートラルを目指す動きに代表されるように、持続可能な社会の実現に向けた機運が国際的に高まっており、森林が重要な役割を果たすことが期待されています。我が国でも、令和3年6月に「森林・林業基本計画」が改定され、森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済の実現を目指しています。

また、道内では令和4年3月に「北海道森林づくり基本計画」が改定され、百年先を見据えた森林づくりに関する施策推進が定められました。このなかで示された7項目の重点的な取り組みのうち、「ゼロカーボン北海道の実現に向けた活力ある森林づくり」「広葉樹資源の育成・有効利用」「道産トドマツ建築材の安定供給体制の強化」「スマート林業による効率的な施業の推進」の4項目については関連する研究開発へのニーズが高まっています。

このような状況を踏まえて、林業試験場では、地方独立行政法人北海道立総合研究機構（以下「道総研」）が策定する第3期中期計画に基づき、以下の2つの推進方向、6つの項目に沿って研究を進めています。

- ◎ 森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展
 - ① 森林資源の適切な管理と木材の生産・流通の効率化のための研究開発
 - ② 再生可能エネルギーなどの利活用と安定供給のための技術開発

- ◎ 森林の多面的機能の持続的な発揮
 - ③ 森林の多面的機能の発揮と樹木・特用林産物の活用のための研究開発
 - ④ 地域・集落を維持・活性化するための地域システムの研究開発
 - ⑤ 災害発生後の応急対策及び復興対策手法の開発
 - ⑥ 災害の被害軽減と防災対策手法の開発